

特 許 協 力 条 約

P C T

特許性に関する国際予備報告（特許協力条約第二章）

（法第12条、法施行規則第56条）
〔PCT36条及びPCT規則70〕

出願人又は代理人 の書類記号 PC-9003	今後の手続きについては、様式PCT/IPEA/416を参照すること。	
国際出願番号 PCT/JPO3/16266	国際出願日 (日.月.年) 18.12.2003	優先日 (日.月.年) 26.12.2002
国際特許分類 (IPC) Int. Cl ⁷ G03F 7/039		
出願人 (氏名又は名称) 東京応化工業株式会社		

<p>1. この報告書は、PCT35条に基づきこの国際予備審査機関で作成された国際予備審査報告である。 法施行規則第57条（PCT36条）の規定に従い送付する。</p> <p>2. この国際予備審査報告は、この表紙を含めて全部で 5 ページからなる。</p> <p>3. この報告には次の附属物件も添付されている。</p> <p>a <input type="checkbox"/> 附属書類は全部で _____ ページである。</p> <p><input type="checkbox"/> 補正されて、この報告の基礎とされた及び／又はこの国際予備審査機関が認めた訂正を含む明細書、請求の範囲及び／又は図面の用紙（PCT規則70.16及び実施細則第607号参照）</p> <p><input type="checkbox"/> 第I欄4.及び補充欄に示したように、出願時における国際出願の開示の範囲を超えた補正を含むものとこの国際予備審査機関が認定した差替え用紙</p> <p>b <input type="checkbox"/> 電子媒体は全部で _____ (電子媒体の種類、数を示す)。 配列表に関する補充欄に示すように、コンピュータ読み取り可能な形式による配列表又は配列表に関連するテーブルを含む。（実施細則第802号参照）</p> <p>4. この国際予備審査報告は、次の内容を含む。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第I欄 国際予備審査報告の基礎</p> <p><input type="checkbox"/> 第II欄 優先権</p> <p><input type="checkbox"/> 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての国際予備審査報告の不作成</p> <p><input type="checkbox"/> 第IV欄 発明の単一性の欠如</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第V欄 PCT35条(2)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第VI欄 ある種の引用文献</p> <p><input type="checkbox"/> 第VII欄 国際出願の不備</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 第VIII欄 国際出願に対する意見</p>

国際予備審査の請求書を受理した日 26.04.2004	国際予備審査報告を作成した日 04.01.2005	
名称及びあて先 日本国特許庁 (IPEA/JP) 郵便番号100-8915 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	特許庁審査官 (権限のある職員) 伊藤 裕美	2H 9515
電話番号 03-3581-1101 内線 3230		

様式PCT/IPEA/409 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 報告の基礎

1. この国際予備審査報告は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。

☐ この報告は、_____ 語による翻訳文を基礎とした。
それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。

- ☐ PCT規則12.3及び23.1(b)にいう国際調査
☐ PCT規則12.4にいう国際公開
☐ PCT規則55.2又は55.3にいう国際予備審査

2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(PCT14条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)

☒ 出願時の国際出願書類

☐ 明細書

第 _____ ページ、 出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 請求の範囲

第 _____ 項、 出願時に提出されたもの
 第 _____ 項*、 PCT19条の規定に基づき補正されたもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ 項*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 図面

第 _____ ページ/図、 出願時に提出されたもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの
 第 _____ ページ/図*、 _____ 付けで国際予備審査機関が受理したもの

☐ 配列表又は関連するテーブル

配列表に関する補充欄を参照すること。

3. ☐ 補正により、下記の書類が削除された。

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

4. ☐ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。(PCT規則70.2(c))

☐ 明細書 第 _____ ページ
☐ 請求の範囲 第 _____ 項
☐ 図面 第 _____ ページ/図
☐ 配列表(具体的に記載すること) _____
☐ 配列表に関連するテーブル(具体的に記載すること) _____

* 4. に該当する場合、その用紙に“superseded”と記入されることがある。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第12条(PCT35条(2))に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性(N)	請求の範囲	1-11	有 無
	請求の範囲		
進歩性(IS)	請求の範囲	1-11	有 無
	請求の範囲		
産業上の利用可能性(IA)	請求の範囲	1-11	有 無
	請求の範囲		

2. 文献及び説明(PCT規則70.7)

文献1; JP 2002-6501 A (東京応化株式会社) 2002.01.09
請求項1-7, [0027]-[0033], [0037], [0042] (XVI), [0050], [0052]-[0057], [0060]
& GB 2356258 A1

文献2; WO 01/73512 A1 (住友化学工業株式会社) 2001.10.04, 全文
& US 2003/0113661 A & JP2001-272782 A

文献3; WO 00/46640 A1 (住友化学工業株式会社) 2000.08.10, 全文
& US 6627381 A & JP 2000-227658 A

文献4; JP 2001-274062 A (沖電気工業株式会社) 2001.10.05, 全文
& US 6511794 B1

文献5; JP 11-119443 A (沖電気工業株式会社) 1999.04.30, 全文

(請求の範囲1-9)

請求の範囲1-9に係る発明は、国際報告で引用された文献またはそのファミリーである文献1-3により、進歩性を有しない。

文献1-3に記載された文献には、当該共重合体の質量平均分子量の範囲は記載されておらず、文献1, 2に具体的に記載された実施例における重量平均分子量は、その範囲の上限を越えるものである。

しかしながら、文献3には、異なるタイプの共重合体であるが、ポリスチレン換算重量平均分子量が、6100、5500、5400、4400の例が記載されているように、文献1乃至3において、当該共重合体の重量平均分子量は適宜決定しうることである。

(請求の範囲10, 11)

請求の範囲9, 10に係る発明は、文献1-3、および、国際調査報告で引用された文献4, 5に記載されているような周知技術により、進歩性を有しない。

文献4, 5に記載されている、化学増幅型ポジ型レジストにおいてパターン形成後、サーマルフロー処理を行い、パターンを狭小化させることは、周知技術である。

文献1-3において、質量平均分子量等を調整し、サーマルフロー処理に適した熱特性に調整し、当該周知技術を適用することは、当業者にとって容易である。

第VI欄 ある種の引用文献

1. ある種の公表された文書 (PCT規則70.10)

出願番号 特許番号	公知日 (日. 月. 年)	出願日 (日. 月. 年)	優先日 (有効な優先権の主張) (日. 月. 年)
JP 2003-321520 A 「EX」	14. 11. 2003	26. 04. 2004	

2. 書面による開示以外の開示 (PCT規則70.9)

書面による開示以外の開示の種類	書面による開示以外の開示の日付 (日. 月. 年)	書面による開示以外の開示に言及している 書面の日付 (日. 月. 年)
-----------------	------------------------------	--

第Ⅳ欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

(a) (A) 成分として、具体的には、p-ヒドロキシスチレンと、一般式 (II a) で表されるアダマンタノールメタクリレート、または、アダマンタノールアクリレートのモル比 80 : 20 の共重合体を、1-エトキシエチル基で保護した樹脂であって、保護される前の共重合体のその質量平均分子量 (Mw) が、8000、分散度 (Mw/Mn) が、それぞれ、1.78、1.5 である共重合体が記載されているのみである。

請求項 1-11 は、その請求の範囲に記載された樹脂成分に対し、十分な裏付けを有しない。

特に、この見解書においては、的確な判断を行うため、請求の範囲 4 の要件、つまり、構成単位 (a 2) が、アルコール性水酸基を有するアダマンチル基含有 (メタ) アクリル酸エステルであることを必須の要件と見なして新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての法第 13 条 (PCT 規則 66.2(a)(ii)) に定める見解の作成を行った。